

近畿大学臨床心理センター平成 22 年度活動報告

奥野洋子

I. はじめに

近畿大学臨床心理センター（以下「センター」と略す）は平成 19 年 4 月に開設され、4 年目に入った、平成 21 年 4 月には大阪市中央区日本橋にある近畿大学会館内に、日本橋カウンセリングルーム（以下「カウンセリングルーム」と略す）を開いた。平成 22 年 4 月から平成 23 年 3 月までの 12 ヶ月間についての活動を報告する。

II. センター紹介

1. 施設について

センターは、近畿大学医学部キャンパス内（大阪府大阪狭山市）にあり、面接室 3 室（面談室、カウンセリング室 1・2）、プレイルーム 1 室、待合スペース、受付、スタッフルームがある。

カウンセリングルームは、近畿大学会館 2 階にあり、面接室が 1 室とスタッフルームがある。近畿大学会館は、大阪市内の日本橋にあり、駅から徒歩 3 分という利便性の良い場所に位置している。



臨床心理センター（玄関）



日本橋カウンセリングルーム（面接室）

2. スタッフについて

平成22年度より相談担当教員が3名増え、センター長、相談担当教員（専門相談員）8人（兼任2人、非常勤6人）、事務職員1人となった。センター長は精神科医師（精神保健指定医）であり、相談員は臨床心理士の資格を有している者が6人、国際応用スポーツ心理学会（AASP）認定コンサルタントの資格を有している者が1人、音楽療法士が1人である。4人の相談員は臨床心理センター、3人はカウンセリングルーム、1人は近畿大学医学部附属病院職員相談を担当している。

Ⅲ. 相談活動状況

1. 相談業務

センターの開室時間は火・水・木曜日の10時～17時、電話受付時間は火・水・木曜日の10時～16時であった。カウンセリングルームの開室時間は月曜日13～17時、火10～13時、木曜日10～17時であった。相談の種類と料金は、表1の通りである。

表1 相談の種類と料金

相談の種類	料 金
初回面接（50～90分）	8,400円（税込み）
個人面接（30分）	4,200円（税込み）
個人面接（50分）	8,400円（税込み）
親子面接（50分）	12,600円（税込み）
心理検査（1種類につき）	4,200円（税込み）

応じる相談内容として、子どもについての相談、自身の性格や行動にかかわる相談、職場・学校・家庭などでの人間関係の問題にかかわる相談、自分の生き方にかかわる相談、スポーツ選手や指導者の心理面についての相談、家族相談としている。

2. 電話受付

電話の受付の月別の件数、電話受付の内容と対応を表2、表3に示した。

近畿大学
臨床心理センター
日本橋カウンセリングルーム
ご案内



近畿大学では
さまざまなこころの悩みや問題、困難に
直面している方々のお役に立ちたい
と願い、地域の皆さまに
こころの相談・援助を提供する
「臨床心理センター」を開設いたしました。

当センターでは、心理臨床の立場から
こころの相談・援助をおこなうと同時に、
こころの問題に関する援助法について
研究をしていきます。

表 2 月別電話受付件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
電話受付件数	9	5	11	18	9	7	10	6	4	4	7	8	98

表 3 電話受付の内容と対応

対応	受付内容		総計	%
	相談の申し込み	問い合わせ		
面接日の予約	62	0	62	63.3%
電話での回答	11	21	32	32.7%
他機関紹介	1	3	4	4.1%
計	74	24	98	100.0%
%	75.5%	24.5%	100.0%	

電話受付の件数は去年より 7 件減少し、6～8 月にかけて多く、全体の約 4 割を占めた。

電話をかけてきた人の内訳は、本人が 46 件 (45.4%)、家族が 37 件 (38.1%)、関係機関からが 8 件 (8.2%)、友人・知人が 4 件 (4.1%) であった。家族の間柄をみると、家族の中のうち約 6 割が母親からの電話であり、妻、娘、姉妹などを合わせると家族からの電話の 7 割以上が女性からで、夫、父など男性からは約 3 割であった。関係機関では、医療機関の医師、医療相談室、企業の産業保健スタッフからであった。

電話の内容では、相談の申し込みが 7 割以上で、対応では、初回面接の予約となったのが 8 割以上であった。初回面接予約となった 62 件のうち、4 件がキャンセルとなった。相談の申し込みのための電話が多いのは、新規相談者の 7 割以上が紹介状を持っての来談であること (表 9) も一因と考えられる。

3. 新規の相談

新規の相談の月別件数、来談者の性別、来談者の年齢層、来談者の住所を表 4、表 5、表 6、表 7 に示した。

表 4 月別の面接回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規の相談件数	3	6	4	9	7	8	4	2	5	2	3	5	58

表5 来談者の性別

性別	件数	%
女	36	62.1%
男	22	37.9%
計	58	100.0%

表6 来談者の年齢

年齢	件数	%
0～6歳	0	0.0%
7～12歳	1	1.7%
13～18歳	11	19.0%
19～22歳	6	10.3%
23～29歳	9	15.5%
30～39歳	12	20.7%
40～49歳	7	12.1%
50～59歳	6	10.3%
60歳～	6	10.3%
計	58	100.0%

表7 来談者の住所

住所	件数	%
堺市	10	17.2%
大阪市	3	5.2%
南河内地域	20	34.5%
泉南地域	2	3.4%
泉北地域	8	13.8%
その他大阪府内	6	10.3%
和歌山県内	2	3.4%
奈良県内	2	3.4%
その他の都道府県	5	8.6%
合計	58	100.0%

南河内地域：

松原市、羽曳野市、藤井寺市、太子町、河南町、
千早赤阪村、富田林市、大阪狭山市、河内長野市

泉南地域：

岸和田市、貝塚市、熊取町、泉佐野市、田尻町、泉南市、
阪南市、岬町

泉北地域：

和泉市、高石市、泉大津市、忠岡町

平成22年度の新規の相談58件のうち、センターへの相談が41件、カウンセリングルームへの相談が17件であり、平成21年度より全体として5件減少したが、カウンセリングルームへの相談件数は増加した。カウンセリングルームへの相談の17件中、近畿大学日本橋診療所からの紹介が7件であった。カウンセリングルームの相談員が3人となり、相談体制が充実したことと、平成22年度よりカウンセリングルームがある近畿大学会館1階の近畿大学日本橋診療所での診療科目に心療内科が新設されたことも大きい。新規の相談は7月～9月が多く、全体の約4割であり、月別の件数の傾向は電話受付と同様であった。性別では女性が6割以上と多かったが、平成21年度より男性の相談件数と割合の両方が若干増えた。

来談者の年齢層では、小学生から70歳代まで広範囲に渡っていた。中学・高校・大学生の年代が約29%、23～39歳の人約36%、40歳以上の人約33%と、上の年齢層の相談が多く、この傾向は平成21年度と同様であった。

来談者の住所では、センターのある大阪狭山市に隣接した、堺市、南河内地域が約52%であり、大阪府南部の泉南・泉北地域を合わせると約69%であった。平成22年度は大阪府が8件から3件に減ったが、その他の大阪府の地域が2件から6件に、大阪府以外の地域から7件から9件と増え、遠方からの来談が多くなった。

次に、相談内容と年齢層を表 8 に示した。1 件の相談でも複数項目が該当する場合が含まれているため、合計すると 112 件となっている。

表 8 相談内容と年齢層

年齢層 相談内容	7～12 歳	13～18 歳	19～22 歳	23～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60 歳～	件数	来談者件数に 占める割合 (%)
子どもについての相談	0	0	0	0	1	1	3	1	6	10.3%
自分の性格や行動についての相談	1	10	5	9	9	6	3	6	49	84.5%
人間関係の問題についての相談	0	5	5	4	10	4	0	3	31	53.4%
生き方に関わる相談	0	4	1	2	4	4	1	4	20	34.5%
スポーツに関わる相談	0	1	2	0	0	0	0	0	3	5.2%
家族についての相談	0	0	0	0	1	0	1	0	2	3.4%
計	1	20	13	15	25	15	8	14	111	
来談者件数	0	11	6	9	12	7	6	6	58	

「自分の性格や行動についての相談」が全体の約 8 割、「人間関係の問題についての相談」が全体の約 5 割と多数を占め、「生き方に関わる相談」も 3 割を超えていた。

年齢層ごとに相談内容を見ていくと、13～18 歳では 90.9%が「自分の性格や行動について」、45.5%が「人間関係の問題についての相談」であり、「生き方に関わる相談」も 36.4%と多かった。19～22 歳では、「自分の性格や行動についての相談」「人間関係の問題についての相談」がともに 83.3%を占めていた。23～29 歳では、全員が「自分の性格や行動についての相談」の相談で、「人間関係の問題についての相談」が 44.4%、「生き方に関わる相談」は 22.2%であった。30～39 歳では、「自分の性格や行動についての相談」が 75.0%、「生き方に関わる相談」が 33.3%で、「人間関係の問題についての相談」は 83.3%と高かった。40～49 歳では、「自分の性格や行動についての相談」が 85.7%、「人間関係の問題についての相談」が 57.1%で、「生き方に関わる相談」が 57.1%と高かった。50～59 歳では、「自分の性格や行動についての相談」が 50.0%で、「子どもについての相談」が 50.0%と多かった。60 歳以上では、全員が「自分の性格や行動についての相談」で、「人間関係の問題についての相談」が 50.0%、「生き方に関わる相談」が 66.7%と多かった。

「子どもについての相談」、「家族についての相談」は「問題」となっている本人は来談せず、親や家族のみの相談で、30歳代以上の上の年齢層にあった。「スポーツに関わる相談」は22歳以下の年齢層で3件あった。

「自分の性格や行動についての相談」は、各年代にわたって多い相談で、相談内容には神経質的な性格や強迫的な行動など、病理的な側面も反映しているものも含まれている。「人間関係の問題についての相談」の相談は、親、子ども、配偶者などの家族との関係、友人関係、上司、同僚などの職場の人との関係などについてであり、20歳代、40歳代が多かった。20歳代は社会出て年数が浅く、職場での不適應の問題が生じやすく、学生時代から顕在していた家族や友人との人間関係が大きな問題に発展しており、40歳代は、職場では中間管理職が代表されるように上司と部下との間の板挟みになりやすく、家族では、高齢化した親の病気や介護の問題、夫婦関係の問題があらわれやすいためと考えられる。ライフサイクル、発達課題の問題に深く関わっている相談が多かった。来談者の主訴としては、「自分の性格や行動についての相談」「人間関係の問題についての相談」であった中に、相談内容、問題の経緯と生育歴、心理検査の結果から、認知面や行動面の偏りや対人関係の未熟さがうかがわれ、発達障害の問題から生じているケースも散見された。「生き方に関わる相談」は40歳以上で多くなる傾向にあり、この中には身体疾患、精神疾患、身体障害などを抱えて生きていくことについて悩みも含まれていた。10歳代後半の「生き方に関わる相談」では、将来の進路に関連したアイデンティティにまつわる内容も含まれていた。

紹介状の有無、来談の経路を表9、表10に示した。

紹介状がある場合が7割以上であった。紹介元の内訳は、23件が近畿大学医学部附属病院メンタルヘルス科、7件が近畿大学日本橋診療所で、近畿大学医学部附属病院全体を合わせると33件、その他の医療機関からは8件であった。

来談の経路では、近畿大学医学部附属病院から聞いて、もしくは紹介されての来談が6割近くで、そのほとんどがメンタルヘルス科からであった。その他は、他の医療機関からの紹介、心理相談機関からの紹介、附属病院内に置いているパンフレットやホームページを見て、友人・知人からセンターの存在を聞いて、と様々であった。

表9 紹介状の有無

内訳	件数	%
紹介状なし	16	23.5%
紹介状あり	42	76.5%
計		100.0

表10 来談の経路

経路	件数	%
近畿大学医学部附属病院	34	58.6%
医療機関	6	10.3%
心理相談機関	5	8.6%
パンフレット・ホームページ	7	12.1%
友人・知人	3	5.2%
その他	3	5.2%
計	58	100.0%

新規相談の初回面接後の処遇と継続面接の形態を表 11 に示した。

初回面接後、継続面接となったのが約 95%で、ほとんどが来談者本人だけの個人面接となった。初回面接だけで終了となったものは少なかった。

表11 初回面接後の処遇と継続面接の面接形態

内訳	件数
継続面接	55
個人面接	53
親子面接（合同）	2
親子面接（並行）	0
初回面接のみで終了	3
他機関へ紹介にて終了	0
計	58

4. 面接回数と面接経過

年度末の面接経過状況、月別の延べ面接回数を表 12、表 13 に示した。

平成 22 年度で扱った相談総ケースは、平成 21 年度以前のケース 67 ケースを合わせて 125 ケースで、平成 21 年度の総ケース数 107 ケースに比べ、総ケース件数は増加傾向であった。平成 22 年度末時点で、面接経過の状態を集計したところ、そのうちの半分以上が次年度も継続扱いとなり、約 4 割が終了となった。他機関へ紹介で終了となったケースは 4 件で、面接は継続であるが他機関に紹介したケースも 2 件あった。これらの紹介先はほとんどが精神科・心療内科の医療機関であり、来談者の状態や希望に応じて、医療的なケアや精神医学

的な精査を目的としていた。

新規の相談面接である初回面接を除いた延べ面接回数は529回で、平成21年度より130回以上増加した。4月、5月が約30回であった以外、他の月は40回を超していた。50分の個人面接も平成21年度の266回から大幅に増加したが、親子面接は37回から減少した。心理検査の件数も8件から増加し、知能検査、人格検査が主であった。

表12 年度末の面接経過状況

内訳	平成22年度 新規ケース	平成21年度 以前のケース	計	%
継続	42	25	67	53.6%
終了	14	40	54	43.2%
他機関へ紹介にて終了	2	2	4	3.2%
計	58	67	125	100.0%

表13 月別の延べ面接回数

相談の種類	月												計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
個人面接 (50)	21	24	38	38	31	44	38	31	36	36	30	38	405
個人面接 (30)	7	3	5	4	9	10	6	11	7	10	9	15	96
親子面接*	2	0	0	3	1	1	2	1	1	0	3	0	14
心理検査	2	2	2	1	0	0	0	3	1	2	1	0	14
計	32	29	45	46	41	55	46	46	45	48	43	53	529

*親子面接について、並行面接の場合1件につき面接回数は2回、合同面接の場合1件につき面接回数は1回と数えている。

5. ケースカンファレンス

センター長、相談員を中心に、毎月ケースカンファレンスとインテイクカンファレンスを定期的に行い、計9回開き、ケースについての検討を行った。

Ⅲ. 学内・地域への活動

1. 学内コンサルテーション

人見センター長は、近畿大学日本橋診療所、総合社会学部、文芸学部、及び国際人文科学

研究所（近畿大学コミュニティカレッジ）、メンタルヘルスアドバイザーを兼務している。

2. 研修講座

平成 22 年度も例年と同様に、夏季教員研修講座「教員のためのカウンセリング講座」を 8 月 2 日（月）に近畿大学会館において開催した。開催にあたり、大阪府教育委員会、大阪府教育委員会の後援使用の承諾を得ることができた。午前中は、土屋麻矢子（近畿大学臨床心理センター専門相談員）による「教育現場が人を育てる『器』となるために」（講演内容



近畿大学臨床心理センター
平成 22 年度夏季教員研修講座のご案内

今年も、夏季教員研修講座として、小中学校等の教員の皆様に向けての「教員のためのカウンセリング講座」を企画いたします。

午前は、発達・適応といった心理学の視点から人を育てることについて、および子どもの心身についての講義をいたします。午後は、午前の内容についての質問や日頃の教育現場での疑問・相談に応じる時間としております。

児童・生徒の心身の発達・行動などに困りの方、日頃の対応に困りの方、どうぞご参加ください。なお、会場の都合により、参加人数を限らせていただきますので、お早目のお申込みをお願いします。

近畿大学臨床心理センター長 入見一彦

教員のためのカウンセリング講座

後援：大阪府教育委員会 大阪市教育委員会

日 時 平成 22 年 8 月 2 日（月） 10 時～15 時（受付開始 9:30）

会 場 近畿大学会館 多目的ホール（5 階）
住所：大阪市中央区日本橋 1-8-17 電話：04-4213-0501
交通：近鉄・地下鉄千日前線・地下鉄塔子橋線 日本橋駅より徒歩 3 分
駐車場はありません。近鉄・地下鉄をご利用ください。

対 象 小・中学校等の教員（定員 50 人程度）

参加費 無料（事前申し込みが必要）

申込方法 7 月 21 日（水）までに、申し込み用紙にご記入の上ファックスで送信してください。メールでお申し込み場合は、申し込み用紙の内容を明記してください。申し込み用紙は、ホームページからダウンロードもできます。申し込みの人数が多い場合はお断りすることがございます。

ファックス：072-344-1340
メールアドレス：ccp@med.kindai.ac.jp
ホームページ：http://www.kindai.ac.jp/saangaku/center/psychology/

お申込みいただいた密接の個人情報、近畿大学臨床心理センター「夏季教員研修講座」に関連する業務のみに使用いたします。他の目的は一切利用することはありません。

プログラム

- ◆ カウンセリング講座①（午前 60 分）
「教育現場が人を育てる『器』となるために」
講師：土屋麻矢子（近畿大学臨床心理センター専門相談員）
発達的な課題があったり、学校生活に馴染めない「新卒」をもった子ども達を、教育現場で「育てる」にはどうしたらよいか、悩むことも多いかと思います。「適応」や「発達」という心理学的な視点から解説しながら、学校現場で大切な基本的な対応について説明します。
- ◆ カウンセリング講座②（午前 60 分）
「小児の心身症について」
講師：村上佳津美（近畿大学医学部第 9 病院小児科准教授、日本橋診療所）
身体症状、不定愁訴を訴えて不登校となるケース等の事例をあげながら、その対応方法などについてわかりやすく解説します。
- ◆ 質疑応答（午後 30 分）
カウンセリング講座の講師ならびに臨床心理センター専門相談員が、午前中の講義内容についての質問、子どもや保護者などへの対応などに関する日頃の疑問・相談に応じます。

～ 会場のご案内 ～



近畿大学会館 多目的ホール
住所：大阪市中央区日本橋 1-8-17
電話：04-4213-0501
交通：近鉄・地下鉄千日前線・地下鉄塔子橋線
日本橋駅より徒歩 3 分
*駐車場はありません。近鉄・地下鉄をご利用ください。

問い合わせ先
近畿大学臨床心理センター
〒564-8511 大阪狭山市大野東 377-2
TEL 072-344-0221 内線 3284
{電話は、火・水・木曜日 10～17 時にお話しします}
FAX 072-344-1340



を本紀要に掲載されている)、村上佳津美先生(近畿大学医学部堺病院小児科准教授、日本橋診療所)による「小児の心身症について」の講義を行った。午後は、午前中の講義内容についての質問、子どもや保護者などへの対応や職場の人間関係に関する日頃の疑問・相談に応じた。

対象は、小中学校の教員としたが、地域の公立小中学校教員、近畿大学グループ附属学校の教員、高等学校教員をはじめとした教育関係者等、参加者は104人であった。

子どもの心身症や子どもへの対応についてわかった、学校・家庭・医療との連携や立場の違いについて理解を深められた、様々な事例や現場の声を知ることができた、現場での実践に役立つことが学べた、次回も参加したい、など好評を得た。質疑応答では、それぞれの現場における問題について討議され、教員の生の声、現場の現状を把握することができた。同時に、センターとカウンセリングルームの存在及び活動内容を広報できた。

3. 広報活動

ホームページ(URL: <http://www.kindai.ac.jp/sangaku/center/psychology/>)を設置し、附属病院インフォメーション、相談員が関わった研修会・講演会などにおいて、センターのパンフレットを配置・配布した。また、近隣医療機関、学校教育機関等の関係諸機関にパンフレットを送付した。平成22年度も引き続き、日本臨床心理士会の『臨床心理士に会う』には(URL: <http://www.jsccp.jp/near/>)への掲載を継続した。

近畿大学
KINKI UNIVERSITY

サイト内検索

HOME | 交通アクセス | お問い合わせ | 資料請求 | ENGLISH

受験生の方へ | 在学生の方へ | 卒業生の方へ | 一般・地域の方へ | 企業の方へ

近畿大学について | 学部学科・大学院 | 学生生活/就職 | 入学案内 | 研究/調査等/地域連携 | 国際交流・留学

HOME > 研究/調査等/地域連携 > センター > 臨床心理センター

センター

臨床心理センター

センター長あいさつ

相談内容

スポーツ選手・指導者への心理的サポート

子どもへの心理的援助の方法

学込方法・料金

英語のご案内

近畿大学臨床心理センター

日本橋カウンセリングルーム

よくある質問

イベント情報

臨床心理センター

近畿大学では、さまざまなこころの悩みや問題、困難に直面している方々の相談に立ちたいと願い、地域の皆さまに向け、こころの相談・援助を提供する「臨床心理センター」を設置いたしました。当センターでは、心理師等の立場からこころの相談・援助を行うと同時に、こころの問題についての援助法についての研究もしていきます。

わたしたちは、日々の生活のなかで、さまざまなストレスにさらされてこころや身体の健康を損したり、心配事、悩み、トラブルを抱えたりすることがあります。そのような時、家族や友人に打ち明けることで、気持ちがすっきりしたり、考えがまとまったり、問題が解決に向かいますが、場合によっては、身近な人には話にくい、打ち明けても大きな変化がないということもあるでしょう。そういう時に、わたしたち「こころの専門家」としてみなさんへ、じっくりと時間をかけて、あなたのこころのなかにあるお悩みを言葉にすることで、一旦、マイナスに思える悩みや問題のうしろに、それまで気づかなかった解決の糸口や変化・成長のチャンスも、そしてあなた自身を思いだすことができるかもしれません。そのためのお役に立つことを願っております。

こころの悩みや問題を抱えてお困りの方は、お一人で、またはご家族だけで悩まれます、お気軽に当センターをご利用ください。

ページトップへ戻る。

サイトマップ | 個人情報取扱いについて | サイトポリシー

近畿大学 (本部) 〒677-8602 大原町東大原市若江3-4-1 TEL (06) 8721-2332 ©Kindai University

IV. おわりに

平成 22 年度は新規の相談件数が平成 21 年度より減少したが、面接回数は大幅な増加となり、継続ケースが多くなったことが分かる。これは、相談員各々の研鑽と、日本橋カウンセリングルームの相談員が増え相談体制と合わせて充実したことによる面が大きいと言える。しかし、専任スタッフがセンター長だけとなり、相談員は全て兼務、非常勤となってしまった。そのため、相談業務の整備やスタッフ間の連絡調整だけでなく、研修講座の開催、紀要の編集・発行などで影響が生じてきており、専任スタッフの配置が今後の課題の一つであろう。